

大学院生プロジェクト型研究・研究成果報告書

研究代表者：崔 敏奎（成人継続教育論研究コース）

■ 研究題目
災害復興地域づくりにおける住民の自主活動
■ 研究代表者・分担者 氏名
崔 敏奎（成人継続教育論研究コース）（代表者）
■ 研究成果概要（目的、実施内容、結果、今後の課題など）
□ 研究の目的 災害復興地域づくりに取り組んでいる住民の「自主活動」に着目して、具体的な学術的視点から、そこに参加している住民の学びプロセスと教育学的意義を明らかにする。
□ 研究の背景 1. 日本の社会教育分野では、本研究で注目している自主活動がもつ教育・学習力に期待が寄せられているものの、実際には自主活動の事例に着目して自主活動がもつ教育学的意義を明らかにした研究は少ない。 2. さらにその自主活動の事例研究では、各自主活動の事例がもつ教育学的意義を明らかにしていることには十分意義をもっているが、その自主活動のプロセスは単なる活動実態の紹介に留まっている。自主活動のプロセスを学術的視点から詳細に分析することが求められる。 ⇒ したがって、本研究で注目している災害復興地域づくりの「自主活動」の学びのプロセスを明らかにするため、本プロジェクト型研究では、理論的研究と事例研究を同時に行う必要性があった。
□ 実施内容 1. 具体的な事例を選定し、質的調査によるデータの確保を行う。＜事例研究＞ ・具体的な事例：南三陸町入谷地区の住民の「自主活動」

・ 総 9 名インタビュー（40 分から 100 分）

2. 分析するための具体的な学術的立場と視点の検討及び確立。＜理論的研究＞

・ 自主活動における学びのプロセスを明らかにするために学術的理論の検討：

① 欧米の成人教育学理論の検討（メジローの変容理論とレイヴ&ウエンガーの状況的学習論）

② 具体的な学術的立場と視点の確立：レイヴ&ウエンガーの状況的学習論

3. 具体的な学術的視点と分析手法（M-GTA）により、災害復興地域づくりの住民の「自主活動」における学びのプロセスと教育学的意義を明らかにする。＜分析＞

□ 結果

南三陸町入谷地区の住民の「自主活動」における学びのプロセスは、「災害復興地域づくりと連携」の学びを経て「自立志向」や「信頼の学び」に繋がった。ここでの「自立志向」や「信頼の学び」は相互的な関係から影響しあい、この学びを通して「学びの場として災害復興地域づくり」の学びが生じた。入谷地区の住民の「自主活動」の学びのプロセスは、単純なプロセスを経ることではなく、各学びには「意識や行動の変革」「コミュニティの変革」「状況の変革」といった社会的文脈の側面がお互いに総合的重層的に絡みながら学びが生じ、参加を深めることによって各学びが繋がるプロセスを見せていた。また、本研究では、入谷地区の住民の「自主活動」の学びのプロセスにおける教育学的意義を「地域の災害復興レジリエンスを高める学び」として考察することができた。

**具体的な学びのプロセスの結果図は次頁の図「入谷地区の住民の「自主活動」と災害復興地域づくりにおける学びのプロセス」を参照。*

□ 課題

本研究における課題として、「自主活動」に参加することによって「意識や行動の変革」「コミュニティの変革」「状況の変革」といった具体的な学びのプロセスを明らかにすることができたが、そこにおける権力やパワーの問題まで解消することができなかった。そのため、次の課題として、「自主活動」の学びにおける権力やパワーが「自主活動」の学びにどのように影響されているのかを明らかにすることを設定したい。

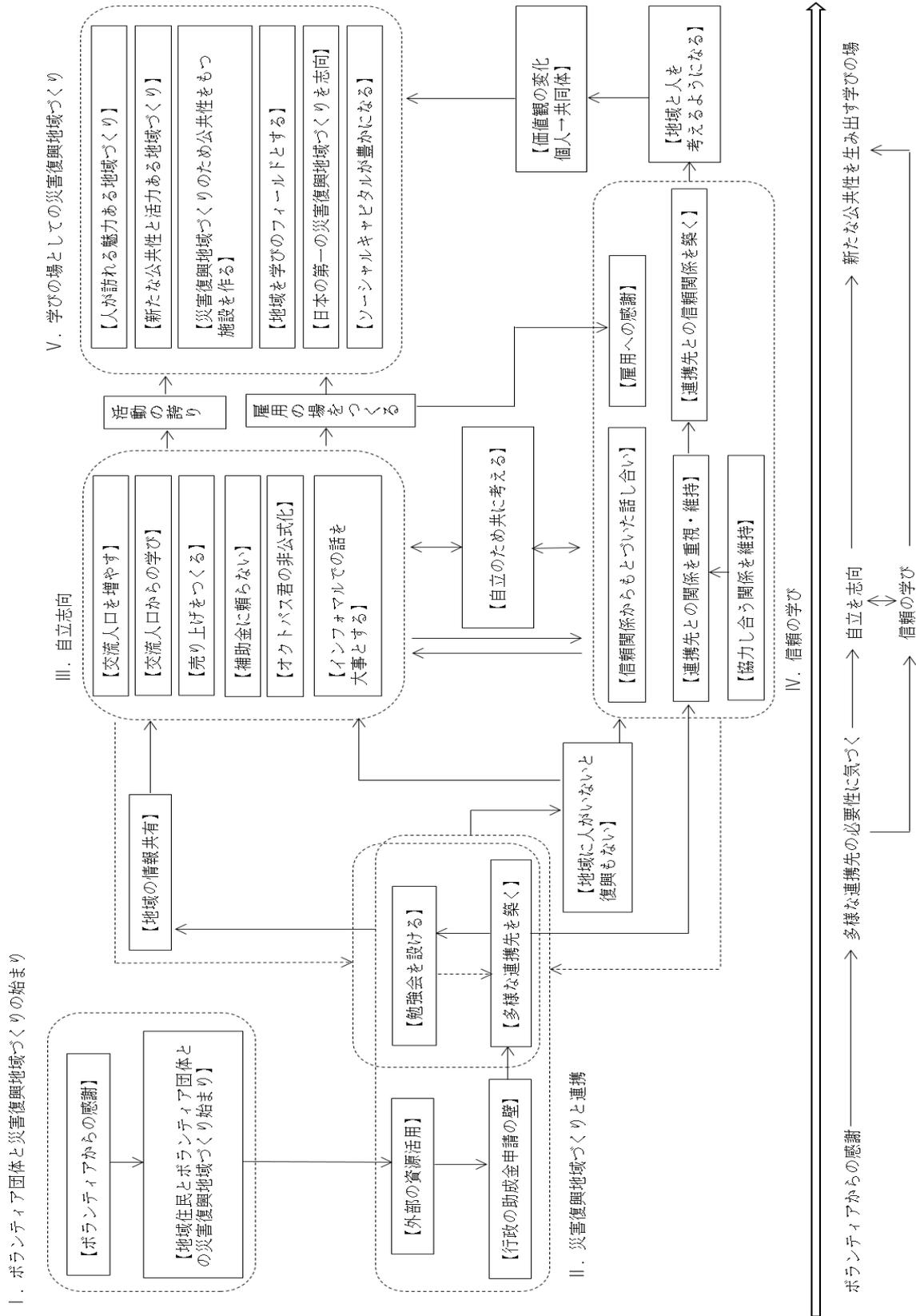


図-入谷地区の住民の「自主活動」と災害復興地域づくりにおける学びのプロセス